

# すまのこ



幼保連携型認定こども園  
尚綱大学附属こども園

## 「園長先生のパスワード、何？」

先日、虫を見つめる園児たちの写真を撮っていたところ、「園長先生、写真を見せて。」と年長さんにお願ひされました。見せようとしたら「園長先生のスマホのパスワードは何なの？私は○○○○だよ。」と話しかけてくれました。時代は変わり、「スマホ利用の低年齢化（普及）も進んだものだなあ」と思いました。低年齢化したり普及したりすれば必ずその媒体についての弊害が話題となります。私が子ども頃、話題の対象は漫画とテレビでした。それがビデオになり、ゲームになり、そして今はスマホです。

昔を振り返ってみたとき、漫画を例にとってみると、「悪い習慣を覚える」「暴力的になる」「勉強しなくなる」「目が悪くなる」など言われ、漫画追放運動も世の中の話題となり、手塚治虫の漫画も悪書と言われました。私も自身も漫画をちよつとした罪悪感を持ちながら読んでいた気がします。実際、私が眼鏡をかけるようになったのも、高校生の頃、本屋さんで漫画の立ち読みにふけてしまったからです。（ほけんだより十月号を高校時代読んでおけば、眼鏡かけなくて済んだかも…）

しかし時代が過ぎ、今では漫画が教科書に載ったり教材として選ばれたり高校に漫画科もできたりしています。また漫画は世界へ発信され、日本の魅力を高め、日本の経済を支える一翼を担っているといってもいいでしょう。

## 漫画から学んだ

私自身も  
「鉄腕アトム」からは  
未来への憧  
れや弱くて  
も協力すれば大  
きな相手にも勝  
てることを学び、「あしたのジョー」からはまたウルトラマンがゼットンに負けた時も必ず勝者になるわけではないことを学び、「ギャプテン」「プレイボー



ル」からは努力の大切さやあきらめない姿勢を学び、「はだしのゲン」からは平和の尊さを学び、「めぞん一刻」からは笑いのセンスを学び、また恋愛への憧れを持たせてくれました。近年では「鬼平犯科帳」から、人としての生き方を考えさせてもらいました。漫画から得たものは自分の財産でもあります。

## スマホの功罪

必ず何かが流行すると功罪両面があります。

「ほけんだより」でもお知らせしていますが、育児において

のスマホ依存への警鐘について日本小児科医学会が「スマホに子守をさせないで」というリーフレットを作成しています。一度ご覧になってみてください。



その中で「意味のある単語は一歳半頃に出るようになりま

す。それまでは、赤ちゃんは『言葉の貯金』をしているのです。言葉が話せない赤ちゃんにも、積極的に話しかけることが言葉の発達にとっても大事です。」とありました。脳の発達は一歳半までに大人の半分ほど成長しています。その間をどう乳幼児とかかわるかはとても重要なこと

いながらも頼ってしまいました。うーん、悩みます。

「スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化」についてある研究では、「身体を動かす機会や活動」「睡眠時間」は減った割合の方が大きかったという結果が出ています。やはり子どもの健康を考えると見せるべきではないのかもしれませんが、しかしこの情報を得たのはAIのチャット機能です。先ほどの研究でも「情報や知識の量」や「ものの見方の広がり」は増えたと答えた保護者が多かったようでした。うーん、またもや悩みます。

見せ続けた場合と見えなかった場合でお互いのグループが大人になった時どう成長するのかわかる調査でないと本当のことは分からないのかもしれませんが、さすがそれは難しいことではないから、「功罪両面を考えながら、適度な利用に心がけることが大切なことだろう」と園児の言葉から自らを振り返る良い機会となりました。